わらしべの里通信

社会福祉法人
わらしべの里

第16号（通巻30号）
発行日
2009年2月1日
発行所
わらしべの家
パソ工房

２００９年、最初の仲間の会

みかんを食べながら 新年の抱負を発表

一月九日午後、わらしべの家では仲間の会主催による「みかんを食べながら新年の抱負を語りあう会」が開かれました。この日は、仲間一人一人が今年の抱負を発表しあったり、施設長の話を聞いたりなど、新たな気持ちを共有する時間を過ごしました。

『健康でいられますように』
『皆と一緒にこれからも頑張っていきたいです』

今年の抱負を一部紹介させていただくと、『仕事だけに集中して、工賃を多くもらいたい』、『今年一年を通して、初心に戻って、さをりの一連の過程を覚えたい』という仕事に熱心な意見が聞こえたり、『健康でいられますように』、『自立したい』、『皆と一緒にこれからも頑張っていきたいです。もう少し家の手伝いができるようになりたいです。早起きができるようになりたいです』など人間関係や、将来を見据えた“抱負”が沢山聞こえました。

抱負を語って、気持ち新たに！！

新年の抱負を語りあう会で、前向きな気持ちを発表している仲間たち

た。

全員抱負を発表し終えたあと、施設長から、一月十二日の成人の日を経て大人の仲間入りを果たす三人が紹介され、盛大な拍手で、祝福されて「家族を大切にする大人になりたい」と、気持ちを新たにしていました。（混む）

おさんぽ

このわらしべの里（知的障害者通所授産施設）では、利用者のことを「なかま」と呼び合っている。その仲間の一人ひとりにそれぞれの個性と自我がある。そこから日常的にいろいろな意見や主張が出てくる。そのルートの一つは、個別的なものである。本人が直接職員に伝えたり、他の仲間に話した内容が職員に伝わってくる場合。

二つは、仲間の会（利用者の自治会）の話し合いから、仲間の総意としてまとめて施設の運営側に伝えられることもある。そして三つは、目安箱（投書）による無記名の筆記によるものである。

このような三つのルートを確立している上でも、究極は施設側スタッフの柔軟なプロ意識とバランスのとれたチームワークが必要である。仲間のねがいや要望をできるだけ受けとめることと同時に、その内容を見極め、適切な方向づけと助言をすることが肝要。

合わせて何も言わない、訴えていないような仲間を見落とすことがないよう・・・。

福祉施設の社会的役割は利用者の人間的・社会的成長を援助し、合せて授産科目を通じた職業的自立への道筋をつけることにあるのだから・・・いまだ道の半ばであるようだが―。

金坂直仁

「みんなが幸せで、元気でいてほしい」願いをこめて、歌声とペンダントを届ける

十一月十四日～十五日の二日間、宇都宮市で栃木県障害者文化祭「カルフルとちぎ二〇〇八・こころのつどい」が開催され、わらしべの家は、芸能部門で合唱曲「TOMORROW」を発表するため、小春日和の十四日午後に参加しました。

仲間と観客との間に絆が生まれた

ステージ入りを控えた仲間たちは、文化会館で他の施設の人たちの舞台を鑑賞し、一輪車を使って繰り広げられたホッピング、縄跳びに目を丸くし、特別支援学校の生徒と高校生によるバントワリング、日光和楽音頭などに拍手を送っていました。

例年だと仲間全員ステージに上がったが、今年はステージから歌声で元気をプレゼントする仲間と、会場から見守り、観客にペンダントを渡し幸せをプレゼントする仲間に分かれて参加しました。

ステージに上がった仲間は、本番前の練習より、よい姿勢で二列に並び、メインパートを前列の仲間たちが歌い、二列目の仲間たちが「わらしべの里」というプラカードを左右にゆらし、サビは全員で歌いました。その声量は、心に響き観客をとりこにしていました。

伸びのある歌声が終わると、会場にいた仲間たちは、「会場に集まった人たちが、幸せになってほしい。元気でいてほしい」という思いで、「これ、みんなで作りました、よかったら記念にどうぞ」と、手作りのクローバーペンダントを観客に手渡した。

ペンダントの裏には、「笑顔で元気ありがとう」などのもらった人が前向きになるようなメッセージが記されており、渡した仲間と受け取った人の間に絆が生まれたようでした。（混む）

「TOMORROW」を歌い、観客に元気をプレゼントしている仲間たち

忘年会？クリスマス会開催される

十二月二十四日、クリスマス・イヴ。わらしべの家でも、午後一時からクリスマス会が華やかに、彩られた食堂で開かれました。

二〇〇八年のクリスマス会は、自分の手で箱の中にあるものを触りながら、周りの人のヒントを参考に、箱に入っている物をあてるゲームで大盛り上がり。箱に入れられたものは、普段目にしているヤカン、たわし、みかんでしたが、手の感覚だけで当てている仲間は、おっかなびっくり・・・はじめて遭遇する生物を触っているような表情を浮かべていました。

箱の中身をあてるゲームを楽しんだあとは、ビンゴで大熱狂しました。「誰よりも、早く上がりたい」と自分のビンゴカードを見つめ「一」、「二」、「十」、「三十九」と次々に読み上げられる数字に喜んだり、悲しんだり。なかなか縦・横・斜めの数字がそろわず「ビンゴ」と叫べない仲間もいましたが、最後まで楽しんでいる様子でした。

プレゼント交換をしたあと、キャンドルの灯りの下で仲間が今年、二〇〇八年を振り返った感想では、「日帰り旅行で行った、那須どうぶつ王国がすごく楽しかったです」、「交流会が楽しかった」、「毎日、楽しかった」、「さをり織り、ビーズ楽しかった」、「今年はお仕事頑張りました。来年も頑張りたい」と読まれ、会場があたたかな空気に包まれました。

そして、仲間達が一年間の感謝の気持ちを込めて書いたメッセージ集が施設長に、仲間の会会長から渡されました。（混む）

ゲームを楽しむ仲間たち

パスポートは持っていないけど みんなで、どうぶつ王国に入国

十月二十三日、わらしべの家で働く仲間たちは、日帰り旅行に出かけました。行き先は、那須町にある「那須どうぶつ王国」。王国に近づくと、まるで、牧場を描いた絵を見ているかのように、冬の間の動物の食べ物として刈られた牧草が、丸められ、牧草地にいくつも置かれていました。車中からは、「北海道みたいな風景が広がっているね」という声が上がっていました。車から降りると、あまりの寒さに、ジャンバーなどの上着を着込んで見学しました。

動物とのふれあい… 楽しいひととき

入国中は、猫をかたどったニャンバスで移動。乗り込むと、猫の鳴き声がお出迎えしてくれました。「かわいい、かわいい」といっているうちに着いた王国ファームショーでは、ニュージーランドからやってきた牧羊犬の機敏な動作にしばらく時間を忘れ、まったりとした時間を過ごしていました。

出国時間が近くなり、ふれあいドックパークやキャットハウスを見てまわることに。扉をあけたら、まわりに犬や猫がたくさんいる！普段とはまったく違う環境で、うれしくて歓声をあげたり、おどろきのあまり悲鳴があがったり・・・。わらしべの仲間たちは、みんなニコニコ笑顔。慣れるまではおっかなびっくり犬や猫に触れていた仲間たちも、すぐになれてかわいがっていました。

仲間たちは、「どうぶつ王国には、はじめて訪れた。ゆっくり観られて、ふれあいの機会を持てたことがよかった」、「ネコの鳴き声に癒された」と話していました。（混む）

ポニーと、のんびり触れあう仲間たち

～ある日のできごと・・・

ある日の午前中、パソ工房の仲間たちはリビングマロニエ新聞社の取材を受けていました。しゅ、取材？！最初にお話をいただいた時、仲間たちはとても驚いていましたが、職員の声かけにより次第に落ち着きを取り戻していきました。

取材当日、朝からソワソワとするなか、取材をしてくれる記者の方が到着しました。主にパソ工房の商品についてのお話で、名刺・ホームページ・今年から作っているカレンダー、そしてメインの年賀状の取材でした。自分たちの作った年賀状が、小さな写真でも大勢の目に触れることは初めてなので、とても嬉しくもあり、ちょっぴり恥ずかしいようなパソ工房の仲間たちでした。

栃木 年賀状　わらしべの家　パソ工房 ☎0282(27)1627

年賀状を「わらしべの家パソ工房」で作りませんか。同工房では（社福）わらしべの里のメンバーが描いた絵の年賀状を作っています。絵柄は写真の３種類で、文章は定型文のみ。氏名・住所・電話番号（メールアドレス）を電話で伝えて。出来上がりはFAXで確認でき、約１週間で完成します。予約は12月22日（月）まで。配達については相談を。

年賀状…１枚100円（１枚から注文OK）
名刺…100枚800円～（デザイン料700円）

栃木市大宮町2708-3　9:00～17:00受け付け　土曜・日曜・祝日定休　FAX0282(27)1675。http://www.cc9.ne.jp/warashibenosato/

王国ファームショーで羊を追う、牧羊犬

手づくりのスポーツ交流会
「みんなが一緒だったからできました」

十月九日（木）に栃木市障害者施設協議会主催によるスポーツ交流会が、栃木市総合運動公園体育館で開催され、市内の障害者施設八施設が集まって交流を持ちました。今回で八回目の開催です。

仲間たちとのふれあい

開会式は、来賓に栃木市福祉トータルサポートセンター所長さんを迎え、「皆さん、日ごろから練習はしていますか？きょうは、その練習の成果を発揮して下さい」と応援メッセージを頂きました。

開会式後「必殺！皿返し」、さらに「玉入れ」や「綱引き」など七種目が行われました。

今年の交流会からの特徴。それは、各施設から二名ずつ十六名が「準備委員」として、司会、準備・整理体操の係で運営に携わったほか、競技に使うものの準備、後片付けを手伝ったこと。委員は、交流会を成功させようと慌しく走っていました。わらしべの家から選ばれた委員は、「教えてもらいながら、司会進行できたし、皿返しなどの競技を準備できた。来年以降も、準備委員はあったほうがいいと思う」と話していました。

勝負が白熱した、綱引き

激しいトスの応酬が続いた「風船バレー」のあと、お待ちかねの昼休み。のんびり、昼休みを堪能する人、お昼を早く食べて友人と話しこむ人と、さまざまでした。

午後は、二人一組になって、巨大なピースを貼り付けてパズルを完成させる「巨大パズル」から競技を楽しむ。貼り付ける場所によって、ハム太郎が美男子になるかが決まるので、施設間を越えた声援も大きくなりました。釣りざおで空き缶を釣る「缶つり競争」では、会場全体が静寂に包まれました。最後を飾った「綱引き」では一喜一憂する勝負に、歓声とため息が入り混じりました。交流会は、紅白とも引き分けで、終了しました。交流会終了後、仲間の会会長は「緊張したけどみんなが一緒だったから、安心してやることができました」と振り返っていました。（混む）

ハム太郎、美男子になるかなあ

～編集後記～

新しい年になって、早くも一月も過ぎ二月になってしまいました。今年一年健康でいられるように、そして、この一年も幸せに過ごせますように・・・・・。

昨年、心に残った思い出は、はじめて卓上カレンダーを作ったことです。わらしべの家の仲間が描いた絵と、さをり織りの反物の写真を使った、わらしべの家のオリジナルカレンダーです。季節の移ろいを今までよりも感じることができました。

新しくカレンダーの作成の仕事をひとつ増やせたことが良かったです。これからもパソコンを使ってできる仕事を増やし挑戦したいと思っています。

今年はどんな年になるのかな。今年もわらしべの里通信、そしてわらしべの家をよろしくお願いします。（範）

社会福祉法人わらしべの里

『わらしべの里通信』第16号（通巻30号）
発　行　元　社会福祉法人わらしべの里
発行責任者　金坂　直仁
編　集　者　わらしべの家パソ工房
〒328-0011　栃木市大宮町2708-3
電話　0282 - 27 - 1627
Fax　0282 - 27 - 1675
E-mail　warasi-nk@cc9.ne.jp（事務所）
http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/